

## 日米纖維交渉の思い出

宮崎 輝

池田勇人元総理が旧制五高の先輩だった関係から、その秘書官をされていた大平さんと私が知り合ったのは、随分昔のことになります。それだけにいろいろな思い出がありますが、なんといっても忘れられないのは、日米纖維交渉に関する思い出であります。

日米纖維交渉というのは、当時の佐藤栄作首相がニクソン大統領の要請にもとづいて結んだ、纖維製品の不合理な対米輸出規制の密約であったということです。これはブルッキングスインスティテュートの詳細な研究やキッシンジャー元國務長官の回想録によつて、いまや明らかにされています。しかし当時は、大平通産大臣はもちろん、日本の駐米大使も知らなかつたわけです。それで、大平さんは、われわれ日本の纖維業界が「アメリカの纖維業界にほんとうに被害を与えているのなら輸出を自制しましょう。しかし被害も出ていないのに自粛はできませんよ」といった正論を支持されました。そして調査団を派遣する決意を固めておられたようです。そこへスタンズ商務長官が来日されたので、瀬田の私邸に招いていろいろ話し合った結果、当時の纖維局長を団長とする高橋ミッシェン派遣が正式に決定されたというわけです。

この時に、大平さんがスタンズ長官に「アメリカ側では交渉のためにきたんだと言つてもいいよ。日本の方では単なる調査のために派遣するんだということにするから、それぞれの使い分けをしよう」ということになつたと聞いて、私はさすがに政治家らしい味のある表現だなあと感心いたしました。高橋ミッシェンの調査結果では、

私どもが出したデータと同じで被害らしい被害が出たという証明がつかなかったということです。

こうして、私は大平さんが通産大臣をされていた時分に、何回かお目にかかったわけです。しかし時には、われわれの業界のなかに会議が忙しくて、ついに約束した時間にこないという人もたまにはおつたのです。それで恐縮して私がお詫びにあがると、大平さんはひとつも怒らないで「いやー忙しい人だから無理もありません」と言われ、私は大平さんという人は、実に心の広い人なんだなあと、しみじみ感じました。

この日米繊維交渉については、アメリカでは民間人が政府の要職につくし、また当時の繊維担当官が辞めて日本側のロビイストになるということが平気で行われる社会ですから、われわれの業界にも隠された事実がほとんど全部わかってきたわけです。しかし私が今でもわからないことがあるのです。それは密約をした時に誰がアメリカへ行ったのか、誰が関与したのかということ。佐藤さんご自身も綿製品協定の時に勉強されて玄人に近いのですけれども、あの密約案は相当な専門家でないとできない内容をもっているからです。もちろん私はそれにタッチした人達が誰であったのか想像はついていますが。

ともかくこんなことは何も知らないで大平さんは通産大臣として非常に苦労している途中で宮沢さんと代られたわけです。そして宮沢さんの時になって初めて、密約の事実がわかったということ。す。

もとより外交そのものには秘密がつきものです。しかしあまりひどい決め方はいけません。もちろん首脳外交ともなれば、自国の政府の幹部にも明かすことができぬ秘密があるかもしれません。大平さんもその後総理になられ、あるいはこれと似たような問題に悩まされたことがあつたかもしれません。

しかし、もはや天にあつて、俗世の些事と笑っておられることでしょう。

謹んでご冥福を祈ります。

(旭化成工業社長)